

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070700347		
法人名	館林衣料株式会社		
事業所名	グループホーム多々良の里		
所在地	群馬県館林市木戸町539		
自己評価作成日	平成29年1月18日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	平成29年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

13年を経過、看取り、入退所等経験する中で、施設長の「皆家族!」『最後の人生を楽しく過ごして欲しい』という強い思いに近付くよう日々心掛けています。利用者の思い、家族の意向に耳を傾け、これでいいと思わず、常に工夫、改善策を全員常勤のチームワークで取り組んでいます。地域推進会議では、時間延長になる程、話が盛り上がり、感謝しながら少しずつでも地域貢献出来たと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

看取りケアの事例があり、経験を通して反省点等話し合ったり、今後の要望への対応や実現に向けて医療処置等の充実を図るために看護職員を採用する等で住み慣れた場所での看取りケアを希望する利用者・家族等の安心につながっている。また、前回の外部評価の結果について、真摯に受け止めて次のステップに向けての取り組みを前向き捉えていることから、ケアの質の向上への工夫がなされていることが伺える。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当初の理念を基に「言葉・絆・家族」を掲げ、会話の弾む楽しい生活を支える統一したケアを常に話し合っている。	代表者が毎日の朝礼で理念に添って伝えたり、月1回の会議の場で確認し合っている。新入職員には担当職員が3ヵ月間専属で指導している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	イベント時の呼びかけ・散歩途中での交流に努め、野菜のおすそ分けも時々頂いている。	公園でのお花や施設行事には近隣の人に声をかけ、一緒にお茶やお菓子を食べる等、交流を図っている。散歩時に会話したり、野菜を届けてもらう事もある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	区長・民生委員・老人会長さんを通じ、相談窓口になればと伝えてあり、いつでも電話受付可能。自由に見学も勧めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月の第3火曜日14時からが定着し、出席率も良く、積極的な意見交換に感謝しながら、地域の様子を伺っている。	年6回開催。市役所や地域包括支援センター職員、区長、民生委員が出席している。事業所の行事報告やヒヤリハット事例の報告を行い、市からの情報等通じて意見交換を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新時に、市役所のチラシを持ち帰ったり、質問したりにも心掛けている。	市の会議に参加したり、分からない事は質問している。管理者兼ケアマネジャーが介護認定申請手続きの代行を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1・2階と連絡取り合い、玄関の施錠はなるべく拘束にならないよう随時心掛けています。車椅子転倒防止策の利用者あり。家族と充分話し合っている。	玄関は自動ドアで外からは自由に入れるが、中からはテンキーで施錠されている。2階フロアとエレベーターの間は開錠され1階迄は自由に降りられ1階で見守っている。車椅子で転倒予防帯を使用している人がおり、家族に説明・同意を得ている。外部研修に参加し、会議で伝達している。	玄関及び車椅子対応等、外部研修の活用や工夫を重ね、常態化しないように日頃から職員間で話し合い、身体拘束のないケアの取り組みを期待したい。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての資料を回覧し、目に見えない言葉の虐待に関して、常に勉強する必要があると思っている。			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今まで該当者が無かったが、ニュース等でも今後増えていくことである為、学ぶ機会に努める必要ありと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書等は事前にお渡しして、持ち帰って充分読んでいただく様にし、質問・要望等も遠慮なく話して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時はなるべく遠慮なく話して頂けるよう配慮している。利用料送付時にミニレターを同封したり、こちらから電話で様子を知らせる事にも努めている。	「グループホーム多々良の里通信」を2ヵ月に1回発行しており、担当職員がお便りを通して家族から意見を聞いている。面会時には日常生活の様子を伝え、会話を通して希望等確認している。変化が分かって良かったとの感想もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議前に、提案箱を用意したりして、多くの積極的な意見交換の材料にしている。	申し送り時や会議時に意見を出し合っている。会議の議題を事前に提案し、担当業務や利用者の対応等具体的に検討している。管理者が勤務表作成時には、3日程度の希望休や勤務内容についても受け付けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の声をなるべく吸い上げ、施設長への報告に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習会になるべく多くの職員が参加できるよう努め、遠くの会場で行けない分、身近なテレビや新聞記事活用も携帯で連絡し合って活用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内での講演会は必ず誰か出席し、交換研修には交代で誰もが体験できるようにし、報告書を回覧している。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人主体を念頭に、遠慮や不安の気持ちを充分理解できるようにし、ご本人の穏やかな生活支援を最優先にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	遠慮なくどんなことでも話して頂ける雰囲気づくりに努め、こちらからも相談したり、参考意見を伺うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず最優先課題が掴めるよう、本人の観察・家族からの聞き取りに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当初より「皆家族！」という合言葉で、人生の大先輩である利用者と共に支え合う関係に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の更なる幸せを求めて、時にはこんなことを試みては…など提案し、家族の意向を伺うことも、職員の学びになるのではと感じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所すると徐々に交流が減ってしまうので、大切に思っている人についても、来訪時伺ってメモしておき、再会出来たり、電話する等つなげている。	友人の訪問時は長く居られる様に居室を使いお茶を出している。家族と毎月外食に出かける人や頼まれて図書館で本を借りたり、化粧品を家族の協力で用意している人もいる。新聞は施設で購入して順番で読んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	節度を保ちながら利用者同士の橋渡し役をしたり、和が保てるよう、時には別の話題にしたりする事もあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時に写真を届けたり、電話で話をしたり、色々なサービスも紹介するよう努めている。時に訃報を頂いたり、年賀状交換が続いている家族もあり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人ノートを活用して、観察・気付きのメモより全員常に回覧しながら検討するようにしている。	職員は担当制になっており、個別にノートを準備して日常の会話や様子を記録し、利用者の意向を把握している。家族からは、面会時に担当職員が希望等確認し、介護計画の素案に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時、生活歴の記入をお願いして、更に日々の様子からケアプラン改善策を聞き取り、把握に努めている。面会者の記録も話題に活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン担当者を中心に、問題提起して話し合い、課題の解決の為、接する時間を多く取るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では常に話し合っているが、家族の来所少ない方には、電話したりしてプランに反映させ、生かすよう努めている。	毎月の職員会議やカンファレンス時にモニタリングを実施している。3ヵ月毎にアセスメント及びサービス担当者と共に介護計画の見直しを行い、家族に説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録も1週間時系列で記入し、要点を日誌に記入。出勤時必ず職員は目を通して、確認合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接のデイサービスへ出掛けたり、24時間家族の面会可能とし、受診、美容院への送迎も行うことあり。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの神社・公園の散歩時の近隣の人とのふれあいで、野菜を頂いたり、訪問理容サービスも利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望優先で、1～2名以外の方が往診医利用となっている。	入居契約時に協力医の説明を行い、家族が希望すればこれまでの主治医の継続も可能である。日頃「受診記録表」をつけて健康状況を把握し、月に2回協力医の往診がある。歯科等は必要時に職員が付き添って受診支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常時看護師と連携を取り、利用者の状況を医師に報告することで、往診及び受診が可能になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	緊急時、館林厚生病院を利用しているが、普段より空き情報交換し、連携に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の希望等、現段階で聞き取りを行って、書類・サインも頂いている。	利用契約書に「看取りの指針」を説明している。状態が変化した時に随時、「看取りについての事前確認書」を基に家族の希望を確認している。看取りの事例があり、反省点等を会議で話し合い今後の看取りケアに活かしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が消防署等で行われている救命救急の講習を受け、会議時に話し合い、共有している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期火災訓練と共に、地震・水害も想定して、地域との協力体制づくりも必要と考え、推進会議でも取り上げている。	平成28年8月31日消防署の立会いで総合訓練、12月14日日中想定避難訓練を実施。非常食は水・缶パン・ご飯を3日分程度確保している。	非常事態に備え、年2回の訓練の内1回は夜間想定避難訓練及び月1回程度の自主訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格尊重を念頭に、排泄時は特に言葉を工夫し、瞬時の心掛けにも気を付けている。	浴室内にカーテンを使用して羞恥心に配慮している。管理者は特に入浴や排泄時には人生の先輩である事の意識を持って接するよう、タイミングを見ながら職員に話している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	望む事を聞き出し、行動を共にして深く関わられるようにしている。回想法を活用して、昔の話に盛り上がることもあり。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者優先を第一に考え、まず、1人1人の体調把握し、リハビリのメニューにも考慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔保持しながら、その人らしさや、おしゃれも出来るようにして、生活の意力にも努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食は職員全員同席し、メニューを紹介したり、楽しく行えている。 家庭の味を楽しめるメニューに努めている。	朝・夕は食材を購入し、昼は配食業者を活用しており、職員も一緒に食べている。おしぼり配り、テーブル拭き、下膳等手伝う人もいる。行事食(誕生会・弁当)や外食したり、毎月ケーキを手作りして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量・記録をチェックし、食べやすい工夫も、個々に行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	医療上、現在最も大切となっていることを再確認し、声掛けし、手助けして、汚れが無いよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排泄パターンを記録・把握し、利用者の様子から察知しての声掛けにて、スムーズな排泄を心掛けている。便秘薬の量も細かく記録し調節している。パット・リハパンの節約は続行中。	排泄チェック表を活用し、声掛けや誘導をしてトイレでの排泄を支援している。状態に合わせてパットやリハパンを使用している。自立者にはさりげなく確認をしている。夜間はポータブルトイレを使用している人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹部のマッサージを行ったり、食物繊維の多い食品や、ヨーグルト等で便秘解消に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯の中で、職員との会話や、時に歌を交えながら、楽しめるよう心掛けている。拒否の時は、職員の連携で声掛け工夫をしている。	週6日入浴日があり、一人当たり週2～3日を基本に入浴支援を行っている。当日入浴の拒否があった場合は別の日に声を掛け入浴介助している。ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を使用して入浴を楽しんでいる。	入浴日には全員に声を掛け、希望やタイミング等を確認しながら本人が選択できる機会へと繋げてはいかがか。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中の活動を促すようにしている。眠れない時には、温かい飲み物をお出しする時もある。 内服薬については、Drと相談している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報は、都度全員回覧している。薬は必ず手渡し、服薬したかの確認をし、日々の観察にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や特技の中から、自分なりの力が出せて楽しめるよう心掛けている。紙芝居や絵本も図書館を利用している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内の庭や、近くの神社等に散歩を心掛けている。1・2階合同行事や、日曜日の活用を話し合っている。	2ユニットあり、合同やユニット単位での外出を心掛けている。外食に出かけたり、菊花展や観梅・フラワーパーク等ドライブを兼ねて外出の機会を作っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての方に預り金がある事。希望時はいつでも使えますよと安心感も伝えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	双方にいつでも電話してくださいと伝えてあり。担当者よりの手紙、写真、年賀状送付も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や月毎に、掲示物・飾りを変えたり、お花等も飾っている。常に換気、湿度、温度確認を行っている。	テーブル席の他にカウンターやソファが配置されている。ホール内には「ホームの歌」が大きく掲示されており、一緒に歌う事がある。季節の花や手作り品が飾られており、季節感が表れている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地良い共用空間ホールにするため、席替えも話し合いにより、行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	誕生カード、写真を飾ったりして、個室空間も大切にしている。時に季節のものが取り出し易いようにお手伝いしている。	寝具、鏡台、テレビの持ち込み、壁に家族の写真を掲示している。ドアの一部がガラス窓になっているが、布で目隠しをしており、落ち着いて過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家族と相談して、余分な物は片付け、持ち帰って頂いたりし、躓くこともない安全環境に努めている。		